

2021年度

Since 1969
To the future

- 2 会長あいさつ・役員紹介
- 3 - 5 教員だより
- 6 - 8 卒業生だより
- 9 - 10 卒業生だより 支部会・クラス会
- 11 卒業生だより わかたけ会
- 12 事務局からのお知らせ・編集後記

VOL.
25

富山高等専門学校本郷キャンパス同窓会会報

ほんごろう

撮影

E9 佐伯則男「初冬の立山、別山から雄山を望む」



会長あいさつ・役員紹介

ほんごう会の皆様へ

富山高専本郷キャンパス同窓会会長
長浜 啓一 Keiichi Nagahama



ほんごう会員の皆様には、ご健勝のことと存じ上げます。

私が前石山会長の後任としてほんごう会の会長を拝命してから2年目に入ります。この間、コロナ過においてほんごう会の活動を自粛せ

ざる負えない状況が続いており、令和3年度もほんごう会総会を中止させて頂きましたこと、皆様にお詫び申し上げます。

ほんごう会も旧高専制度にして53回生が令和3年度に卒業し約7,000名以上の方がほんごう会員になっています。また、本年度は14回生の方々が定年を迎える年代となりました。富山高専も歴史を感じる学校となってきました。高専は他の学校（高校、大学）とは違い、5年間の一貫教育により、15歳から20歳までの多感な年代を勉学、部活、あるいは寮生活と過ごすことが出来ました。部活、寮生活においては、他の学科生とあるいは先輩、後輩の立場で交流を深める事ができ、5年間の高専生活はお互いの絆を深める事が出来たと思います。年代を重ねるとともに、5年間に共に過ごしたクラスメート、あるいは共に部活で汗を流した仲間との思いは強く、高専卒業生だと分かれば、わだかまりなく話を進めることが出来るのではないのでしょうか。

現在、富山高専の同窓会は昨年の会報でお知らせしましたが、富山高専同窓会（統合後学生による同窓会）、ほんごう会、北斗会の3つの同窓会が共存する形となっております。他の高専とは違った体制になってはいますが、この3つの同窓会を今後どのような形態にしていくのかを学校、同窓会同志と協議を行っているところになります。

歴史を重ねる高専ですが、他の高専卒業生を含め多くの卒業生が全国各企業にて活躍されております。そのようななか、東京高専が主体となり高専卒業生のキャリア調査として全国の高専卒業生の方々から無作為に15,000人の方々を抽出して、アンケート依頼が行われました（令和3年11月24日～12月13日）。この調査は、高専での学習経験と卒業後のキャリアとの関係を把握することで、高専教育が果たしてきた役割を解明するとともに、今後のエンジニア教育全般を研究するための基礎データの収集を目的としたものです。今後の高専制度の在り方について、貴重なご意見になると考えます。ほんごう会員でもアンケート依頼が届いた方がおられたと思います。ご協力頂きました方々には感謝申し上げます。

ほんごう会の活動状況については、（富山高専ほんごう会）で検索しますと見ることが出来ますので、ご覧頂きたいと思います。ほんごう会が高専同窓会、北斗会とともに富山高専を支え、会員の方々の情報交換の場として活躍できます様皆様のご支援、ご指導をお願い致します。

役員の紹介	氏名	卒業年/学科期	現在の勤務先	備考
会長	長浜 啓一	S48/M5	(株)KANAYA	シニアフェロー 富山高専技術振興会理事
副会長	打出 孝彦	S53/C10	北日本電機産業(株)	シニアフェロー 富山高専技術振興会代表者
	上田 一人	S58/M15	(株)Eアル	シニアフェロー 富山高専技術振興会代表者
常任理事	栗原 貞雄	S48/E5	(株)シードシステムズ	シニアフェロー 富山高専技術振興会代表者
	藤田 正良	S52/E9		シニアフェロー
	金井 毅俊	S53/K5		
	一谷 雅幸	S54/M11	(株)コラビエット	シニアフェロー 富山高専技術振興会代表者
	岡崎 信也	S56/E13	富山県議会議員	富山高専技術振興会会員
	鋪田 博紀	S59/K11	富山市議会議員	富山高専技術振興会会員
	種部 元仁	S63/E20	(株)北陸経営	シニアフェロー 富山高専技術振興会会員
関東支部長	長谷 治男	S44/M1		
監事	浜下 朝夫	S44/M1	富山高等専門学校	特任教授、コーディネーター 非常勤講師、シニアフェロー
	竹中 直志	S45/E2	丸栄運輸機工(株)	
学校窓口	井上 誠	S59/K11	富山高等専門学校	機械システム工学科 教授

富山高専退職にあたっての「雑感」

電気制御システム工学科

櫻井 豊 Yutaka Sakurai



先日名誉教授記を頂いた後、記帳簿に署名をしました。半世紀近く前入学した時にも毛筆でそれをした記憶が蘇ってきました。1973年4月、富山高専の電気工学科に入学した時の事です。困ったことに学級委員を任命されており、右も左も分からずオロオロするだけでした。小学校以来時々学級委員になりましたが、マトモに職責を全うできた試しが無かった上に、いきなり大学みたいなところだったからです。そのストレスもあって最初の半年位、いやずっと大変でした。富山高専の学生時代の5年間と、後年母校に戻って教えることになった24年間とを比較しても、今となってはその重みはあまり大差無いような気がします。無論いずれの期間にも体験は多々あり、限られた紙面でまとめるのは困難な事のようにです。

敢えて高専以外での記憶を顧みれば、修士修了後の会社経験でしょうか。会社は決して楽なところではありませんし、私が就職した会社は、学校で学んだ事があまり生かされない気がしていました。ちょっと基礎学問的な事を言うと、「ノーベル賞でも取るのか？」と揶揄され、「それは面白いね！」とか言うと、「遊びじゃないんだ！」と諭されました。一番苦手だったのは「理屈じゃないんだ！」と。無論理屈じゃない所をどう処理するかが社会人としてのたしなみななのでしょう。しかし私はその辺が駄目で、入社する前日に人事の自分より若い担当者から「お前なんか要らない」と罵倒され、新人研修では次期社長に意見してリーダーを外されました。10年あまり在職しましたが、私の特許技術などで会社にはそれなりに貢献したと思っています。高専出身者は融通が利かないと言われる。しかし、新しいことを見つけたら発明したりするには、人に迎合するとか世渡り術などとは別に（それも必要でしょうが）愚直な努力や自力で物を考える事が重要でしょう。みんな他人の禰で相撲を取り出したら、まともな相撲取りはいなくなる事でしょう。

会社には向かなさそうと、10年余り経て辞めました。少し無職期間があり、そこで仕事が無い「経済的な」厳しさをひしひしと感じました。会社くらい辞めても「何とかなる」と思っていました。すでに結婚して長女も生まれており、会社は給料

だけではなくそれ以外の色んな負担をしているのだと、遅まきながら理解しました。当方は体験主義・実地主義は余り好きではありません。する必要の無い経験とかすべきでない経験もあるからです。しかしながら、仕事の無い経験という「しなくても良い経験」を初めて試みて、体験しなければ分からない事というのは確かにあるものだと感じました。妻にまともな収入があるわけでもなく、無収入なのに前年度の収入に掛かる住民税は容赦無く取られます。健保に年金の支払い、それにアパートの家賃と、わずかの退職金もあつという間に底をついてしまいました。仕事に就ける有難さというのは、その時にひしひしと感じました。高専も決してラクな職場ではありませんでしたが、無職時代の厳しさを思い出して堪えました。

会社を辞めて少し無職期間を経て高校に奉職しました。ちょうどバブルがはじけた頃でしたので民間の転職先もなかなか見つからなかったのです。幸いなことに、今と違い教職免許（高校・工業）は楽に取れて持っていました。誰も信じてくれませんが教育実習もしていません。結局2年余りでしたが高校での経験も貴重でした。私よりも15歳くらい若い人たちが新人研修を受け、専門の工業以外に数学や物理や化学も担当しました。感じたのは高専の教育内容のレベルの高さでした。高専に来た時、大学レベルの教育内容に驚き、「少し易しくしたらどうですか？」とK教授に申し上げましたら、「出来ない奴に合わせてどうする！」と一喝されました。

出来ない奴が出来る学生を24年間教えて退職したところです。本来ここで書くべきことは高専での思い出や、同窓会関連の事なのでしょうが、現在囑託で在職中ということもあり、あまり退職モードで思い出話を語るという心境になれなくてこんな話で失礼いたします。

What a Wonderful World

一般教養科(英語)

富田 尚 Takashi Tomita



「今日は倒れた旅人たちも、生まれ変わって歩き出すよ。」

私が高校生だった頃、中島みゆきさんが歌う「時代」が街に流れていた。これまで、私は幾度もこの歌に慰め、元気づけられてきた。

定年前最後の1年となった昨年度は、コロナ禍により、体育館での集会はなくなりました。全校学生への伝達は校内放送で行なわれることになったのです。例年、終業式の後、定年退職者によるお別れの言葉も放送で伝えられることになりました。冒頭にあるように、中島みゆきさんの歌を歌うことから、私は話を始めたのです。続けて、

若い旅人である皆さんは旅の途中、躓き、倒れることもあるだろう。力強く立ち上がり歩み続けてほしいと願う。年老いた旅人である私は4月以降も教師として今しばらく旅を続け、若い旅人にHang in there. Keep on running until the end.とエールを送り続けようと思う。そして、永遠に花を咲かせることを願い私は歌うだろう。

Blossom of snow may you bloom and grow, bloom and grow forever.

最後まで私の好きな「エーデルワイス」の一節を歌い、話を終えました。

平成4年4月に富山工業高等専門学校に講師として着任して以来、29年の歳月が流れました。赴任初年度には野球部の顧問となり、高校野球部部長として公式戦でベンチに入り部員達にあらん限りの声で声援を送りました。校内練習で当時の4番バッターが打った球が外野の防球ネットを越え、民家の屋根まで飛んでいき、屋根瓦を破損してしまいました。民家の方にお詫びに行ったことも懐かしい思い出となりました。その後、外野の防球ネットが整備され、高さも高くされたと記憶しております。野球部顧問の中島孝慈先生を始めとする先生方のお人柄がとても素晴らしく、その後、10年間顧問を続けました。野球部の顧問を長く続けたおかげで、専門学科の先生方とも親しくさせて頂くこととなりました。

校務では、クラス担任や主事補を幾度も務めたことで、どの年も思い出深く、愛しいものとなりました。学生が自主的に創造的に物事に取り組む姿に感動し、様々な事を立派に成し遂げた時の笑顔に「私は、今、ここに生きている」ことを実感できました。

平成5年に機械工学科1年生を担当することになりました。そのまま持ち上がり、機械工学科2年最後のホームルームの時間に学生が「2年間担任ありがとう」と花束をプレゼントしてくれました。まさにサプライズの出来事でした。平成9年、10年は環境材料工学科の担任を務め、学年主任、学生主事補を兼務しました。2年の時に、担任団で福井県の「ガラガラ山キャンプ場」を見つけ出し、合宿研修を行なったことは忘れられない思い出となりました。当時学生主事であった寺田龍郎先生が「やってみたらいいじゃないか」と応援して下さったからこそ、また担任団がみな若く、仲が良かったからこそ実施できた研修でありました。平成18年、19年は、電気工学科の担任を務めました。私は高専間人事交流制度により平成20年4月から富山商船高等専門学校に勤務することが決まっていたのですが、人事に関する事なので学生達には黙っていたのですが、学生たちはこの異動をどこからともなく知ることになったようです。2年最後のホームルームの時間に「2年間担任ありがとう。商船でも頑張れ!!」という思いを込めたクラス学生全員の寄せ書きをプレゼントしてくれました。再び最後のホームルームでサプライズが起きたのです。感激した私は私の好きな歌Moon Riverをお返しに歌いました。

今、深夜、一人自室でこの原稿を書いています。私のこれまでの人生は、多くの人達から、学生達からのエールに支えられて、ここまで来ることができたのだなあと改めて思いました。するとサッチモことルイ・アームストロングが歌ったWhat a Wonderful Worldが私の心に流れてきたのです。私は、迷うことなくこの原稿のタイトルとしました。

思い出すこといくつか

一般教養科(国語)

高熊 哲也 Tetsuya Takakuma



富山高専にお世話になって22年の歳月が流れました。高等学校教員を経て高専に勤務したので、その経験が生きた部分と、新たに身につけて行かなければならなかった部分をすりあわていった日々だったように感じています。

赴任した翌年、初めて担任を受け持った機械工学科の卒業生たちが、卒業後開催日を固定して毎年同窓会を開いています。よほどのことがなければ欠かさず参加してきました。新型コロナウイルス感染症の流行の折もリモートで実施するなど、律儀なものです。彼らも自分が担任した時の年齢を超え、今や社会では中堅層に育ち、いろんな方面で活躍している姿に接するたびに、この仕事に就いてよかったなど実感させられます。若かったので、学生との学生諸君との距離が近く、自分なりに誠実に向き合っていたのでしょう。仲のよいクラス作り、学生諸君の自主的な活動力を高めることに心がけていました。学級担任や学生主事補のような仕事は、高校勤務の経験も役だったようです。

一方、あまり縁がなかったというか、本当は避けていたと言った方がいいかもしれません。学生寮の仕事に携わったのは50代になってからでした。主事補の経験がないのに、いきなり寮務主事をせよとのご下命にいささか戸惑ったのを記憶しています。指導寮生たちがしっかりしてくれて、概ね任せておけばうまく収まりがつかないのですが、それでもトラブルや事故は発生します。この詳細は筆を省くしかありませんが、夜中11時を回ってから電話が入り、自宅から5kmの夜道を自転車何度か駆けつけたものです。4年間寮務主事を勤めましたが、年を追うごとに血圧が上がっていき、降圧剤を飲む羽目になりました。もちろん自分の不摂生が元だと言われればそうなのですが。

今はなくなりましたが、相撲大会を経験された同窓生の皆さんもおられると思います。当時の1年生を相手に、一番だけ、回しを始めて相撲を取りました。寮行事も時代に合わせて変遷していますが、こちらもコロナ感染症防止のため縮小されたのは、大変残念なことです。教員の負担軽減のため、学外から指導員を雇い、教員と組み合わせる宿日直を組む体制作りをすることと、中期的な展望のもと学生寮の改修計画を立てることに取り組みました。今仰岳寮は、中央部に管理棟ができており、今年度中には4号館の全面改修が終了します。

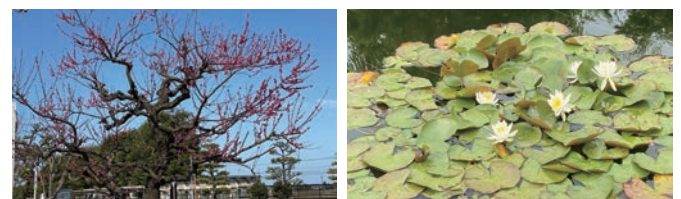
もちろん私の後の主事の先生方のお力ですが、先鞭をつけたことが形になったのを嬉しく感じています。

課外活動では赴任から10年くらいは、松井先生のもとで柔道部の顧問をしておりました。今でも柔道部は全国大会出場常連校ですが、当時は筑波大学での合同合宿や、本校や岐阜高専が中心となつての強化練習会などがあり、部員も教員もかなりのエネルギーをかけていました。その時の経験が糧になって、課外活動でも学生諸君が力を出すためにどうことができるかを学ばせて頂きました。

先述の指導寮生もそうですが、高専は4、5年生がプライドを持って下級生を導くシステムが強みです。その後指導した囲碁将棋部の指導では、成果を上げたと自負しています。囲碁や将棋は幼少から始めた子がどうしても群を抜くのですが、全く初心者で始めた学生でも4年ぐらいまで継続して努力すれば、そこそこの実力がつきます。その上級生たちだからこそ、初歩の下級生たちへ適切なアドバイスができるのです。幼少から経験を積んで入ってくる子が、そういう流れに乗ってチームに溶け込むと、よい雰囲気になります。

全国高専将棋大会では優勝も果たし、常に強豪校として活躍してきましたし、女子学生も3人で述べ4回、個人戦で優勝しました。高校の大会でも、団体・個人・男・女問わず全国大会に出場して活躍してくれました。

本郷キャンパスは花木が豊かで、正面ロータリーの紅梅から始まって、春は白木蓮、桜、花水木、躑躅。桜は種類も豊富で、目立ちませんが寮裏にはソメイヨシノではない桜とこぶしが共演します。初夏から満天星(どうだん)、池の蓮。秋は金木犀が香り、花ではありませんが寮前の銀杏並木も鮮やかな緑から黄色にトンネルを作ります。冬場も椿が3月末まで花をつけており、1年中目を楽しませてくれます。1年掛けてキャンパスをめぐる、スマホで写真に収めました。新しい入学生たちが希望を胸に入学し、思い出を脳裏に刻んで卒業していく、大切な日々これからもエールを送りたいと思います。



正面ロータリーの紅梅(左)、池の蓮(右)

卒業生 だより

高専を出て 地元の放送局に勤めて山に登る

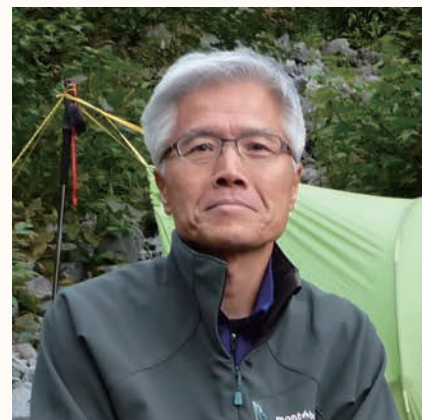
北日本放送株式会社

常務取締役 佐伯 則男 (E9)

昨年秋に恩師小川勝先生が叙勲を受けられたことからこの原稿を書くことになりました。受賞の報を聞いて野坂俊明君がさっそく祝賀会準備のためにと今はやりのLINEアプリにE9クラス会のグループを作ってくれ、すぐに10数名の懐かしい面々が集まったのですが、コロナ禍で祝賀の宴は思うにまかせず、LINEは近況報告の場になりました。私は最近山登りばかりしているので山の写真を載せたところ、野坂君に「なんてきれいなん！」とおだてられ、本会役員の藤田正良君からは「得意の写真を使った記事を」と唆され、このような卒業生だよりを書くことになりました。

振り返ってみると中学校を卒業し高専の門をくぐってからちょうど50年になります。昭和47年に当時の電気工学科に入学し東京大学への編入学を経て北日本放送に入社し現在に至ります。

高専での懐かしい思い出は数々ありますが、今の自分の基礎は高専で培われたように感じています。先日、仕事でお付き合いのある山口放送の恵良（えら）技術局長が、この方は徳山高専のご出身ですが、取締役に昇任されたのでお祝いのメールを送ったところ、さっそく「以前ご一緒させていただいた時に、何事も物事の本質を理解することが重要であると教えて頂きました。今後も基本をしっかりとし身に着け精進していきたいと思っています。」と返信がありました。えっ俺そんな



こと言ったかな、と思いながらも高専での教えに思いが至りました。一例を挙げれば、実験の時間にダイオードの特性を測るという課題があり、整流素子との思い込みから単純なグラフを提出したところ、小川先生からそんないい加減なことではどうすると以前先輩方が描いたという精緻に立ち上がり特性が測定されたグラフを示して叱られたことが思い出されます。

在校生の皆さん、これから皆さんが担う社会では、いわゆる「デジタル」で目まぐるしく変革が進むことでしょう。だからこそ今はじっくりと腰を据えて基礎を固めてください。

大学を卒業後すぐに北日本放送（KNB）に入社しました。当時は無線が好きなので大きな送信機が扱えて嬉しいなどと言っていました。KNBには先進的な社風があり、地上デジタル放送を全国のローカル局の先駆けとしてNHKより先に開始したり、ワイドFMを国内で初めて開局するなど、伸び伸びと仕事に携わらせて貰いました。現在はインターネットの普及により放送の在り方が問われています。KNBは地域に最も必要とされる放送局であることと、放送ジャーナリズムの追及を経営理念に掲げて変革に取り組んでいます。この地元の放送局に皆さんから様々な話や意見を寄せていただければ有り難い限りです。社内技術部門には高専の卒業生も多数いて放送を支え、関係する制作者にも高専出身の方がいて素晴らしい番組を作ってくれています。



ハツ峰を越えて剣岳へ



冬のハヶ岳縦走



五竜岳を背景に唐松岳へスキーで移動

さて山の写真を見てください。5年ほど前から登山に夢中になって毎週のように山に入っています。日帰りからテント泊、岩登りに冬山、スキーなど様々に楽しんでます。写真はなるべく景色のきれいなものを選びました。この他に昨年はテント泊で槍ヶ岳から北穂高岳へ大キレット通過、今シーズンは雄山から両方向（富山側山崎カール、黒部側御前沢カール）へのスキー滑走もしました。

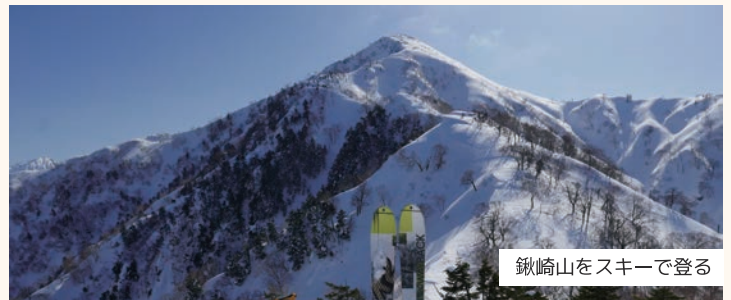
この登山への取り掛かりにも高専の思い出が関わっています。当時年に1回、学校を出て10キロ走るといふ行事がありました。その頃は全くの運動音痴で10キロ走るなどとてもないこと、やっとのことで学校まで戻りました。足を攣りながら飲んだファンタが実に美味しく、こんなうまいものがこの世にあるのかと思ったのを今でも覚えています。そういう自分が何故か53歳の時にランニングを始めました。マラソンブームに乗せられたのでしょうか。クラブに入って走り方を教えてもらい、高専での行事を思い出し10キロを1時間

で走れば18歳の自分に戻れるという呪文を唱えて練習していました。走れたからといって18歳に戻れるはずはないのですが、呪文の効果もあってか、いつか10キロ1時間を切れるようになりました。そうこうするうちにランニングクラブで薬師岳登山に誘われました。以来、山にハマリ、今に至ります。

聞くと今はその10キロ走は行われていないようです。走り方も教えずに10キロに放り出す乱暴な行事だったかもしれませんが、高専での貴重な経験として生きています。どなたの発案だったのか分かりませんが感謝しています。

復活してはどうでしょうか。浦和高校では50キロの強歩大会が伝統行事として行われていると、仕事でお付き合いのあるソニーの営業担当者は誇らしげにその思い出を語ります。

いつか剣岳から滑れないだろうかと思っています。体験記を読んでインディアンクローワールや大脱走ルンゼという文字を見るとわくわくします。どなたか一緒に行きませんか。



剣崎山をスキーで登る

高専祭で 人生が決まったかもしれない話

富山市議会議員
鋪田 博紀

K11

自由闊達すぎる校風に馴染めず退学を考えていた1年生の秋。最初で最後だからと高専祭だけでも楽しんで学校を去ろうかと体育館のステージを見に出かけたことが運命を変える。

入学時、体験入部した時にお世話になった野球部のマネージャーを務める先輩が、実験用白衣を着て中島みゆきやイルカの曲を軽やかに弾き語りされている。彼女の歌とギターに魅入られ自分も音楽をやってみたくなった。すぐさまバイトで貯めたお金を握りしめ楽器屋さんに行った。モーリスのギターを持ち帰っていた。結果的に、卒業する彼女の後釜として3年の終わりからマネージャーとして野球部に入部することになるので、不思議な縁だ。

2年生になって、高専祭の運営に関わるため自ら学生会に飛び込んだ。

それから月日が流れ、自ら進んで高専祭実行委員長となっていた。それはキャンパス中に音楽を響かせたかったから。

しかしそんな計画も、学生によるバイク死亡事故の発生により、内容の自粛を求められた。美術部の仲間が作成したポスターは事故を連想させるから作り直せ、ライブハウスやディスコは不謹慎だから禁止する、等々。

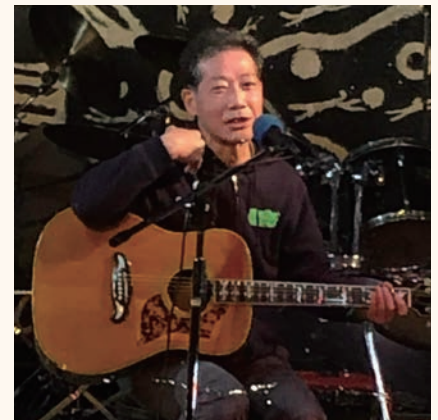
OBが経営する印刷会社に発注済みのパンフレットは、広告主からお金をいただいている以上印刷を取りやめることはできない。退学さえ考えていた自分を学校に戻してくれた高専祭を淋しいものにしたくない。

学校側から、自粛した内容のプログラムを早く提出するよう迫られたが、印刷が間に合わず、提出できるのは当日と嘘をつき通した。当日は思いっきり叱られたが、今考えるとそんな見え透いた嘘がまかり通ったのは、僕らの思いを遂げさせてやりたいと陰で支えてくださった先生がいらしたからに違いない。

高専祭は大盛況。仲間にも助けられ、というより彼らの悪知恵に乗っかるかたちで自主財源も確保し、今だから言えるが、スタッフにバイト代も支払えた。

結果、これに味を占めて、エンターテインメントと舞台音響の世界に飛び込むことになる。分野違いとは言え、高専で学んだ工学全般は、音響の世界ではなくてはならないものだった。そして今や音楽や舞台芸術は僕の人生にとって大きなウエイトを占めることになる。

結びに、高専祭・学生会に関わったことが仲間と一緒に困難を乗り越える力を養ってくれた事は間違いがない。今の高専も技術・知識は勿論、社会を生き抜く基礎的素養を学べる場所であって欲しい。



卒業生 だより

私は旧新湊市堀岡、放生津潟の畔で育ちました。昭和40年に高専に入学、45年春卒業。担当教官から、隣県の新潟鐵工への就職を薦められ、建設機

械を主力製品とする群馬県の高崎工場に配属となりました。新潟鐵工は石油精製プラント、内燃機関（ディーゼルエンジン）の二本柱が主力製品で、その他工作機械、JR等の車輛、造船、建設機械等の総合機械メーカーです。氷見線や城端線走る列車の殆どは新潟製でした。新橋とお台場を走る「ゆりかもめ」も我社の製品です。高崎ではアスファルト舗装の為のアスファルト合材を生産する「アスファルトプラント」の設計に従事しました。一般の方には馴染みの薄い機械と思いますが、プラントは多方面の専門知識が要求され、当時は学生時代にもっと勉強しておけば・・・と後悔したものです。

プラント設計に当たり客先の要望を確認する為に全国を出張しました。富山県にも思い出の多い客先があります。その中でも忘れられない案件は富山空港の神通川対岸に設置した佐藤工業系列のプラントです。もう30年前の事でありまだ元気に稼働しているのでしょうか？そして私の実家近くでもプラント設置の計画が立てられましたが、地元自治会が中心となり建設反対同盟が設立され暗礁に乗り上げました。プラントは大気汚染、騒音、振動等設置に当たり厳しい法律が適用されます。当然法律はクリアしているのですが地元の同意無くして設置できず、富山営業担当から地元住民を集め説明会をしたく、私が説明に行く事になりました。質疑応答の後、言うてはいけない！と思いつつ、「私は茅野と言ひ。地元の生まれ」と言ったら皆さんの態度が急変。すんなり同意を得ることができました。故郷は有り難いものです。

更に、八丈島でも同様の問題が起き地元住民同席の元、八丈町町議会で安全性について語った事も忘れられません。入社3年後、通産省から助成金を戴き、新潟鐵工として光化学スモッグの元凶である窒素酸化物の除去装置（排煙脱硝装置）の開発プロジェクトが発足、高崎工場から私が選ばれ開発完了までの5年間、東京に転勤しました。その間、長崎五島列島で一番大きな福江島で長期間。脱硝装置の実験で出張しました。福江島は九州電力に納めた新潟製のディーゼルエンジンで発電しており、その排気ガス中の窒素酸化物除去の実験です。キラシタン文化の残る異国情緒溢れる所での楽しい実験でした。昭和53年、開発が完了し高崎に復帰しました。



羽田-日本航空整備場にて

アスファルトプラントは国内だけでなく海外への輸出比率も年々高まり、平成4年に中国広東省の広州と香港側の深圳を結ぶ約130Kmの高速道路建設の為のプラントを10台受注しました。当時は短期間でしたが設計係長から製造課係長として平成4年7月～翌年4月まで現地責任者として滞りました。中国人特有の個性をイヤ！と言うほど経験してきました。懐かしい思い出です。

新潟鐵工は富山県の大企業の不二越と比べ入社当時の資本金、従業員数、売上高等やや上回っていたと思っていましたが、平成7年頃から業績が悪化し、平成9年に高崎工場は閉鎖。横浜工場へ転勤しました（この時に設計課長に昇進）が横浜も2年後に閉鎖となり今度は群馬を通り越して新潟県の工場へと単身赴任が続き、将来に不安を感じ、

入社後丁度30年の平成12年3月末で退社しました。群馬に戻り新潟鐵工時代に協力工場だった会社にお世話になり焼却炉の技術を身に付け2年後に自宅で設計事務所を設立しました。新潟鐵工は残念ながら私の退社後の1年半後の13年秋に倒産。今思えば、正しい選択だったと思っています。

倒産後、昔の仲間の多くは群馬に戻り、プラント関連の仕事をする友人も多く、彼等からの仕事の依頼や焼却炉関連の設計依頼等、忙しく楽しく仕事をさせてもらいましたが、歳と共に仲間のリタイアが進み仕事量も減り数年前に設計事務所の看板を下ろしました。今は町内会の役員に専念しており12年目を迎えております。体力、気力の続く限り町内会の為に活動するつもりです。又、息子が近くで介護の仕事をしており、50～60代の頃、息子に頼まれて趣味のギターを抱えて何度か慰問しましたが最近では声が出にくくなり、辞めました。

最後に、高崎の独身寮にいた時、実家から見合い写真が送られてきました。今の妻の写真です。

私の叔父と妻の叔母が夫婦で、叔父の紹介でもあり結婚を決めました。見合い写真の妻は食べたいくらい可愛い顔をしていました。あの時食べておけばよかった！と後悔しております。

私の母は数か月後に百歳です。妹夫婦と射水市で同居。コロナでもう2年近く帰省しておりません。妻の母親も96歳、氷見市で一人暮らしをしており、妻は4年前から月の半分、年の半分を母の介護で帰省しております。

射水市に住む親友から北日本新聞への投稿を薦められ15年前から10回以上「声の交差点」に掲載されました。主に故郷富山に関する内容ですが、もうネタが切れませんでした。

故郷を離れて五十余年

群馬県在住 茅野 鈴雄 (M2)

工場見学 S44年 大阪駅前



第3回高専大会北陸地区予選
S43年7月14日 石川高専にて100m出場



S44年3月 工場見学旅行 大阪-日立造船にて

卒業生だより 支部会・クラス会

関東支部懇親会 (2020年2月1日開催)

関東支部長 長谷 治男 (M1)

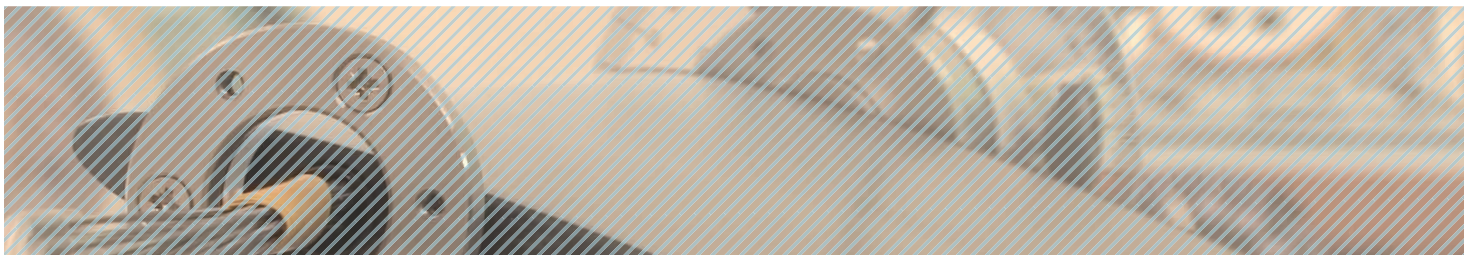
新型コロナウイルス感染が爆発する前の2020年の2月1日に東京上野公園内の上野精養軒本店に於いて、4回目となる関東支部同窓会(懇親会)を開催しました。今回は意見交換の為に富山からも日帰り参加出来るようにランチ・スタイルとしました。参加者は小川勝名誉教授をはじめとして総勢25名。円卓・大皿盛りの西洋料理(フランス料理)をつつきながら自己紹介から始まりました。

初期の卒業生の参加が多く、定年退職して晴耕雨読の毎日かと思えば、現役バリバリの方も多くおられて、さすが技術者集団だと感動した次第です。卒業以来50年ぶりの再会に盛り上がる会話。あの本郷の里の若き日々は永遠なり。あつという間の3時間でした。宴の終盤に

富山から参加された石山会長(当時)から、統合されたスーパー富山高専の同窓会立ち上げに伴う「ほんごう会」の立ち位置について説明がありました。良い方向に落ち着く事を願うばかりです。この関東支部同窓会の懇親会は約4年に1度の割合でオリンピックの年に開催しており、次回は2024年2月あたりを予定しております。決まりましたら会報「ほんごう」に載りますので、同期や先輩・後輩、部活の仲間などに連絡し合せて誘い合ってください。宜しくお願いいたします。



関東支部懇親会写真



M43クラス会写真

M43同窓会を 開催しました

松井 大貴 (M43)

2021年12月29日(水)に同窓会を開催しました。参加人数は15名でした。昨年はコロナの影響で同窓会は中止しましたが、今年は昨年と比べ、少し落ち着いたかと思い開催しました。とはいえ、まだまだ混乱が続くご時世なので、健康第一で来年また会いましょう！

2019年 E3クラス会@立山

川原 久雄 (E3)

E3メンバーで毎年開催している旅行会、2019年は8月20日(火)～21日(水)の日程で、立山登山とみくりが池温泉の旅を満喫して来ました。毎年実施の旅行会ですが、今回も北陸・関東・関西から13名もの仲間が参加しました。

2018年の旅行開催時に、今度は久しぶりに富山でやろうという事になりましたが、富山ならやっぱり立山だろうという事で、「みくりが池温泉ホテル」に宿泊し、翌日は立山登山組と富山観光組に分かれ、夜は富山市内での宴会と盛りだくさんのスケジュールでした。あいにくの天候で、2日目の立山登山組は雨に見舞われましたが、1日目のみくりが池温泉では夕焼けがとてもきれいでした。雷鳥も歓迎してくれて良い経験ができました。



E3クラス会写真(立山登山2019年8月20日)



小川勝先生の 叙勲綬章を祝って

野坂 俊明 (E9)

令和2年11月3日朝刊の叙勲綬章者欄に、大変お世話になった小川勝先生のお名前を見つけてびっくり。

早速先生に電話すると「いやいや、ありがとーありがとー」と、現役時代と全く変わらない口調で、しかもそろそろ傘寿とは思えないような澁刺としたお声だったので、またまた驚いた。

「3年間担任して戴いた電気工学科9回生としては何かせんあかん」と同窓生仲間と相談するも、正に新型コロナの第2波から3波への移行中で如何とも難しく、その後ワクチン接種に期待したが更に第5波が到来し、結局ほぼ1年遅れで同窓会を兼ねた「お祝いの会」の開催に漕ぎつきました次第です。

みんな介護保険被保険者に達したお年頃、病気で参加できない者もいましたが、12月18日とやま自遊館での祝賀会には、県外者3名を含む17名(内1名はオンライン参加)が顔を揃えてくれました。この時勢ですので、新型コロナ感染対策には十分配慮致しました。

卒業生だより 支部会・クラス会

今回は広島へ行くという事になり、計画中です。日頃疎遠なE3同窓生もぜひご参加下さい。

<8月20日(火)>

■各地から「みくりが池温泉ホテル」に集合
富山からは立山駅に集合して、「立山カルデラ砂防博物館」を見学。さすがエンジニアだけあってか、皆さんしっかり見学、ケーブルカーの乗車時間もギリギリでした。関東組は黒四ダム側から集合です。夕方はみくりが池周辺を散策して、ホテルで硫黄温泉と美味しい夕食で大満足、部屋で二次会も楽しみました。

<8月21日(水)>

■立山登山組
雨と霧の中でしたが頂上まで制覇できました。

■富山観光組
YKKセンターパーク見学：皆さん熱心に見学し時間足りない。
魚津埋没林博物館見学：映像も見ごたえあり。
富岩水クルーズ：初めて乗ったが面白いのでお勧めです。

■夜は富山駅前の「華」に集合し宴会
来年の話に盛り上がりました。

<参加者>

(北陸8人) 上田,金尾,川原,高田,館谷,中島,中田,吉崎

(関東4人) 熊本,野村,森,米田

(関西1人) 嶋

幹事：川原久雄,野村正信

報告：川原久雄

教え子代表の挨拶、乾杯と続き、先生のご挨拶を聞いていたら、それこそ50年前の高専時代の教室に戻って先生の講義を訊いているような感覚を覚え「ああ、やっぱりやって良かったな」とつくづく思った次第です。

それぞれの近況報告や懐かしい写真を見ていたら、アツという間に予定時間が過ぎてしまい、最後にみんなで健康を祈念し、再会を約束して会場を後にしました。

小川先生、そして参加頂いた同級生の皆様、幹事の皆様大変お疲れ様でした。また、数年後にお会いしましょう。



小川勝先生叙勲授章祝い(E9クラス会)

卒業生だより わかたけ会

わかたけ会だより(2021年度)

7年目を迎えたわかたけ会は、新型コロナ対策を行ない、多数の皆さんに参加頂きました。

わかたけ会幹事 藤田 正良 (E9)
e-mail: fujimasa70@gmail.com

★第19回わかたけ会(4月19日(月)、小杉CC)
参加者は9組33名(新会員3名)
小杉CCでの開催は2回目。絶好の晴天の下、
楽しく競い合いました。

	氏名	学科	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	竹内勝彦	E4	46	49	95	22.8	72.2
二位	高林秀一	M8	49	43	92	19.2	72.8
三位	大田幹夫	C9	43	42	85	12.0	73.0
四位	落合昭二	E11	43	48	91	18.0	73.0
五位	竹内勝彦	K4	51	45	96	22.8	73.2
BG	大田幹夫	C9					

優勝はE4竹内勝彦さん：
シャンクを最小限に抑えられたのが良かった。
二位はM8高林秀一さん：
あたりは悪かったが結果が良かった。
三位はC9大田幹夫さん：呉羽でシングルになりました。



★第20回わかたけ会(7月11日(日)、棚山GC)
参加者は12組46名(新会員9名)
初開催の棚山GCでは、楽しいコンペの予定が県下を襲った雷雨の
ために、スタートが遅れプレーが中断されてクラブハウスに避難する
波乱の大会でした。なんとか、全員無事に終了出来ました。

	氏名	学科	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	高野正章	M30	48	54	102	31.2	70.8
二位	中井一彦	M20	45	54	99	27.6	71.4
三位	杉原克之	K4	44	46	90	18.0	72.0
四位	山本繁之	E8	46	49	95	22.8	72.2
五位	藤木匡志	M30	53	47	90	16.8	73.2
BG	近藤隆	E4	43	44	85		

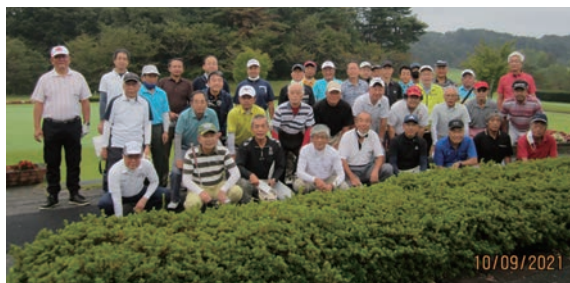
優勝は、初参加のM30高野正章さん。
初参加なので、皆さんに迷惑をかけないようにしました。
最終組のため追われるプレッシャーが無かったのが良
かったかな。
二位は、初参加のM20中井一彦さん。
三位は、参加2回目のK4杉原克之さん。



★第21回わかたけ会(10月9日(土)、太閤山CC)
参加者は12組48名(新会員3名)
開催3回目の太閤山CCでは、強い日差しもなく風もなく穏やかで言
い訳のできない絶好のコンディションでした。
早朝より熱い戦いを繰り広げました。

	氏名	学科	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	山本繁夫	M12	46	45	91	20.4	70.6
二位	高野正章	M30	47	53	100	28.8	71.2
三位	大田幹夫	C9	39	38	77	4.8	72.2
四位	館谷清隆	E3	50	50	100	27.6	72.4
五位	田中伸次	K5	50	44	94	21.6	72.4
BG	大田幹夫	C9					

優勝は、参加3回目のM12山本繁夫さん。
二位は前回優勝のM30高野正章さん。
三位のC9大田幹夫さんは、わかたけ会新記録のバス
トグロス「77」を出されました。
今までは、第10回(高岡CC)のC10角川肇さんの「
79」でしたが、さすがは呉羽のシングルプレーヤー
ですね。



事務局からのお知らせ

1 同窓会誌(Vol. 25)の送付について

2021年度の同窓会誌(Vol. 25)は、ホームページ上での閲覧を計画しておりました。しかし、新型コロナウイルス感染対策のため、やむなく定期総会・懇親会を中止としたため、同窓会誌(Vol. 25)は、沢山の会員皆さんに読んで頂きたいと思い、送付致します。恩師の先生方にも送付します。

2 会員の異動通知の連絡方法について

ほんごう会ホームページより、会員の異動通知の連絡が可能となりました。従来は、同窓会誌巻末のはがきによる連絡だけでしたが、ホームページからの受付を可能としました。会員皆様のご利用をお願いします。各クラスの理事の方へのお願いです。クラス会等で、会員名簿で住所不明者となっている方、住所変更された方や物故者の詳細を知っておられるのではないかと思います。是非とも、ホームページから入力して頂き、同窓会誌が沢山の会員へ届けられるようにご協力お願いします。

3 クラス会からの寄稿について

クラス会等を開催された場合は、是非とも下記事務局宛のEメールアドレスまで送付お願いします。投稿頂きました団体には、従来通り助成金をお送り致します。

4 卒業生だより

会員皆さんの近況や職場を、会報またはホームページで紹介させていただきます。投稿頂きました会員の方には、助成金をお送り致します。

5 おくやみ申し上げます

近年に逝去された先生です。

高瀬 泰	2017年 1月
篠田 清徳	2018年 6月
関場 鐵也	2020年 3月
安田 賢生	2020年 3月
久保 正二	2020年12月
中川 英世	2020年12月
尾崎 秀男	2021年 4月
米田 政明	2021年 8月
見瀬 和雄	2021年 8月

(敬称略)

編集後記

2021年度も、2年目の新型コロナウイルス感染対策に振り回された年でした。ほんごう会も、例年11月に開催していましたが、来年度はぜひ開催できるよう準備致します。会員皆様のご支援を宜しくお願いします。

今年度の同窓会誌は、「教員」「卒業生」「クラス会」の各分野で原稿をお願いしました。「教員」では、昨年度に退職された櫻井先生、富田先生と今年度に退職される高熊先生より寄稿頂きました。ありがとうございました。「卒業生」では、技術系に偏らず幅広い職種で活躍されている卒業生を知って頂くため、3名の方をお願いしました。「クラス会」は、例年沢山の原稿を頂いていましたが、コロナ自粛により件数は限られてしまいました。

来年度も幅広く皆さんからの原稿を集めて同窓会誌に載せていきます。コロナで自粛されていたクラス会も再開されると

思っていますので、是非とも事務局へ投稿をお願いします。お待ちしております。

私の住む町内は、昔から落雷被害を受けた家が沢山あり、「この付近は雷の通り道だ」と言われていました。3月下旬には隣の寺で落雷があり、本堂が全焼しました。11月下旬には、私の家に落雷しました。幸いにも、火災は発生しませんでした。多くの電化製品が壊れました。これを機会に、自然災害対応の見直しを行わなければとつくづく感じました。皆さんも、自然災害時はどうするかを、今一度チェックされることをお勧め致します。

事務局

・藤田 正良 (E9) : fujimasa70@gmail.com

・種部 元仁 (E20) : tane@b.email.ne.jp

ほんごう会
事務局

藤田 正良・種部 元仁

HP <https://hongokai.sakura.ne.jp/>
Eメール toyama@hongokai.sakura.ne.jp

ホームページの閲覧は、パスワード不要になりました。

